



未来の先生展
2017

未来の学びシンポジウム

～世界を変える教育・未来をつくる教育～

パネルディスカッション講演形式

開催日時 2017年 8月 26日(土) 10:00-12:00

場 所 武蔵野大学有明キャンパス 3号館 3F

司 会 川本潤 (学校法人シュタイナー学園)

内容

子どもたちの将来を考えた時、それは明るい未来でしょうか。それとも、暗雲立ち込める不安な社会でしょうか。それを決めるのは大人になった本人たちです。

教育の役割とは、子どもたちのまっすぐなまなざしの邪魔をしないことかもしれません。子どもたちが、自分とは何か、世界とは何か、喜びとは何かを、自らの感性で掴み、自らの意志で立ち、自らの知性で切り開けるような、自由な生き方を支える教育を考えます。



ここに注目！

子どもたちが巣立つ10年後・20年度の社会は従来までのものと同じでしょうか。経済成長は限界を迎え、グローバル化の競争は熾烈を極め、超格差・超高齢化社会が到来し、人工知能が人間を超えて社会全体に拡がり...予測できる範囲でも一層不透明な世界が垣間見えます。それに伴い価値観の多様化が進む中で、教育だけは戦前からさほど変わらないシステムが継承されています。経済が未来を創るという時代は終わり、労働力を育成する教育から創造力を育む教育へのシフトが求められています。当たり前ですが未来を築くのは人間であり、人間を育てるのは教育です。さて、未来に生きる子どもたちにはどんな人間になってほしいですか。一流大学に進学し、一流企業に就職したら安心ですか。医者か弁護士になれば安心ですか。昨今では従来までの一流企業が次々と崩壊していきました。AIの発達で医療も芸術も含めあらゆる産業の役割が大きく変わろうとしています。どんな未来になるかわからないからこそ、どんな社会になっても幸せに生きていける力が必要です。『ライフシフト』『ワークシフト』の提言にあるように、生き方・働き方・人間関係の在り方・死生観など多くの側面から従来までの延長線上にない全く新しい世界のあり方が創作されはじめています。その全ての根幹をなすのが教育です。人間とは何かに基づいて、自らの意志で未来を切り拓いていく力を育む教育とは何か、ホリスティック教育・オルタナティブ教育の最前線から未来の教育を考えます。

登壇者



永田 佳之

聖心女子大学文学部教育学科教授
同グローバル共生研究所副所長

『新たな時代のESD：サステナブルな学校を創ろう』

『持続可能な教育と文化：深化する環太平洋のESD』

『オルタナティブ教育：国際比較に見る21世紀の学校づくり』



吉田 敦彦

大阪府立大学副学長
同学生センター長

『世界のホリスティック教育 もうひとつの持続可能な未来へ』

『いのちに根ざす日本のシュタイナー教育』

『持続可能な教育社会をつくる/ 環境・開発・スピリチュアリティ』



古山 明男

古山教育研究所所長

『変えよう！日本の学校システム ―教育に競争はいらない―』

『ベーシックインカムのある暮らし』



石黒 和己

NPO法人青春基地 代表理事

東京大学教育研究科修士課程